

折に触れ 四字熟語

NO. 309 『呉越同舟』 ごえつ どうしゅう

< 意味 > 仲の悪い者同士や敵味方が、同じ場所や境遇にいること。本来は、仲の悪い者同士でも同じ災害や利害が一致すれば、協力したり助け合ったりするたとえ。

< 出典 > 『孫子』^{きゆうち}九地

< 故事 > 『孫子』で、「呉と越は宿敵同士でしばしば戦いを繰り広げたが、その憎しみ合っている両国の人々が、同じ舟に乗って川を渡るときに大風が吹いて舟が覆りそうになれば、普段の恨みも忘れて互いに助け合うだろう」とたとえた故事から。

表 言 : 呉越同舟してバスに乗り合わせる

用 例 : 酒場では呉越同舟でありたい。仲のいい客同士ならなおいい。

<山口瞳・諸君！この人生、大変なんだ>

語 釈 : 「呉」と「越」はともに中国春秋時代の国名。父祖以来の因縁の宿敵同士で、その攻防戦は三十八年に及んだという。

一 言 : 衆議院総選挙の結果を受け、国民民主党は11月7日の執行委員会で、自公両党との経済対策の協議に入る方針を確認した、との報道がされています。連立を組んだわけではないので呉越同舟とは言えないかもしれませんが。

参照文献 : 岩波書店「四字熟語辞典」